

はじめに

1. 調査の前提

1-1 基本方針

1-1-1 調査対象年次 昭和65年、70年、75年

1-1-2 調査対象目的 通勤・通学目的の定期客を対象とする。

1-1-3 調査対象区域 運輸経済研究センター発行(昭和55年3月)の「名古屋圏高速鉄道網整備計画
運輸有報告書」における圏域をほぼ踏襲した。

ゾーニングは、名古屋市周辺地域については、市町村を集めた集約ゾーンとし、名古屋市内及び国鉄瀬戸線（工事中）沿線地域については、市町村を細分した分割ゾーンとした。

1-1-4 将来ネットワーク 都市交通審議会第14号
答申(昭和47年3月)並びに各運輸事業者で計画中の路線を参考として、昭和65年、70年、75年の各年度までに整備可能と予想されるものについて、路線設定した。

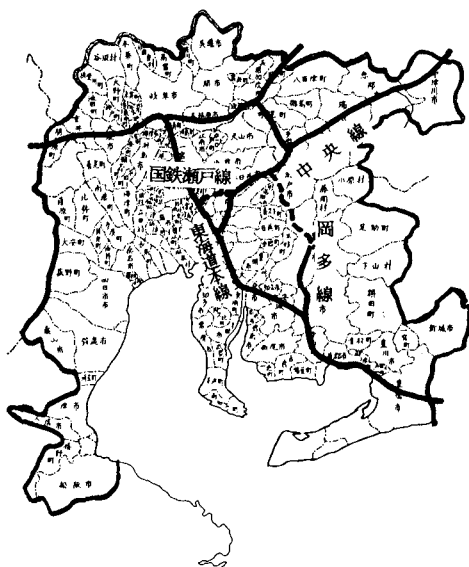
昭和65年の基本ネットワークとしては、現況ネットワ-クに田子線新豊田～高蔵寺間、地下鉄6号線 中村区役所～今池間、桃花台線 小牧～桃花台東間を相入れれた。

また、昭和70年の基本ネットワークとしては、65年基本ネットワークに加え、地下鉄3号線 小田井へ庄内緑地公園間、6号線 今池へ野並間を組み入れた。その他各検討ケース毎に基本ネットワークと組み合わせるネット

ワークは、国鉄瀬戸線

勝川～枇杷島間、東山
新線 藤ヶ丘～菱野間
、地下鉄7号線 上飯
田～平安通間などとし
た。

調査圏域図



「名古屋圏鉄道需要動向調査」将来交通量の予測フロー

